



ddns コマンド～ debug xdmcp コマンド

ddns (DDNS アップデート方式)

DDNS アップデート方式のタイプを指定するには、DDNS アップデート方式モードで **ddns** コマンドを使用します。アップデート方式タイプを実行コンフィギュレーションから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ddns [both]

no ddns [both]

シンタックスの説明

both (オプション) DNS A および PTR リソース レコード (RR) へのアップデートを指定します。

デフォルト

A RR のみをアップデートします。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
DDNS アップデート方式	•	—	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ダイナミック DNS (DDNS) は、DNS で管理されている名前からアドレスへのマッピング、およびアドレスから名前へのマッピングをアップデートするものです。DDNS アップデートを実行するための 2 つの方式 (RFC 2136 で定義されている IETF 標準、および一般的な HTTP 方式) のうち、セキュリティ アプライアンスのこのリリースでは、IETF 方式をサポートしています。

■ ddns (DDNS アップデート方式)

名前とアドレスのマッピングは、次の2タイプのリソースレコード (RR) に保持されます。

- A リソースレコードは、ドメイン名から IP アドレスへのマッピングを保持します。
- PTR リソースレコードは、IP アドレスからドメイン名へのマッピングを保持します。

DDNS アップデートを使用すると、A タイプの RR に保持される情報と、PTR タイプの RR に保持される情報との一貫性を維持できます。

DDNS アップデート方式のコンフィギュレーションモードで発行されると、**ddns** コマンドは A RR に対してのみアップデートするのか、A RR および PTR RR に対してアップデートするのかを定義します。

例

次の例は、ddns-2 という DDNS アップデート方式で A RR と PTR RR に対するアップデートを設定します。

```
hostname(config)# ddns update method ddns-2
hostname(DDNS-update-method)# ddns both
```

関連コマンド

コマンド	説明
ddns update (インターフェイス コンフィギュレーションモード)	ダイナミック DNS (DDNS) のアップデート方式を、セキュリティ アプライアンス インターフェイスまたは DDNS アップデート ホスト名に関連付けます。
ddns update method (グローバル コンフィギュレーションモード)	DNS のリソースレコードを動的にアップデートするための方式を作成します。
dhcp-client update dns	DHCP クライアントが DHCP サーバに渡すアップデート パラメータを設定します。
dhcpd update dns	DHCP サーバによる DDNS アップデートの実行をイネーブルにします。
interval maximum	DDNS アップデート方式によるアップデート試行の最大間隔を設定します。

ddns update (インターフェイス コンフィギュレーション)

ダイナミック DNS (DDNS) アップデート方式をセキュリティ アプライアンス インターフェイス またはアップデート ホスト名と関連付けるには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ddns update** コマンドを使用します。実行コンフィギュレーションから DDNS アップデート方式とインターフェイスまたはホスト名間の関連付けを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ddns update [method-name | hostname hostname]
```

```
no ddns update [method-name | hostname hostname]
```

シンタックスの説明

hostname	コマンド文字列において次に続く用語がホスト名であることを指定します。
<i>hostname</i>	アップデートに使用するホスト名を指定します。
<i>method-name</i>	設定するインターフェイスに関連付ける方式名を指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィ ギュレーション	•	—	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

DDNS アップデート方式を定義したら、それをセキュリティ アプライアンス インターフェイスに関連付けて DDNS アップデートを有効にする必要があります。

ホスト名は、Fully Qualified Domain Name (FQDN; ドメイン名完全修飾子) またはホスト名のみを指定します。ホスト名の場合、セキュリティ アプライアンス ホスト名にドメイン名を付記してドメイン名完全修飾子を作成します。

例

次の例は、インターフェイス GigabitEthernet0/2 を ddns-2 という DDNS アップデート方式とホスト名 hostname1.example.com に関連付けます。

```
hostname(config)# interface GigabitEthernet0/2
hostname(config-if)# ddns update ddns-2
hostname(config-if)# ddns update hostname hostname1.example.com
```

関連コマンド

コマンド	説明
ddns (DDNS アップデート方式モード)	作成済みの DDNS 方式に対して、DDNS アップデート方式のタイプを指定します。
ddns update method (グローバル コンフィギュレーションモード)	DNS のリソース レコードを動的にアップデートするための方式を作成します。
dhcp-client update dns	DHCP クライアントが DHCP サーバに渡すアップデートパラメータを設定します。
dhcpd update dns	DHCP サーバによる DDNS アップデートの実行をイネーブルにします。
interval maximum	DDNS アップデート方式によるアップデート試行の最大間隔を設定します。

ddns update method (グローバル コンフィギュレーション モード)

DNS リソース レコード (RR) をダイナミックにアップデートする方式を作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **ddns update method** コマンドを使用します。実行コンフィギュレーションからダイナミック DNS (DDNS) アップデート方式を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ddns update method name

no ddns update method name

シンタックスの説明

name DNS レコードをダイナミックにアップデートする方式名を指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	•	—	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ダイナミック DNS (DDNS) は、DNS で管理されている名前からアドレスへのマッピング、およびアドレスから名前へのマッピングをアップデートするものです。**ddns update method** コマンドにより設定されたアップデート方式は、いずれのダイナミック DNS アップデートをどれぐらいの頻度で実行するかを指定します。DDNS アップデートを実行するための 2 つの方式 (RFC 2136 で定義されている IETF 標準、および一般的な HTTP 方式) のうち、セキュリティ アプライアンスのこのリリースでは、IETF 方式をサポートしています。

名前とアドレスのマッピングは、次の 2 タイプのリソース レコード (RR) に保持されます。

- A リソース レコードは、ドメイン名から IP アドレスへのマッピングを保持します。
- PTR リソース レコードは、IP アドレスからドメイン名へのマッピングを保持します。

DDNS アップデートを使用すると、A タイプの RR に保持される情報と、PTR タイプの RR に保持される情報との一貫性を維持できます。



(注)

ddns update method を有効にするには、ドメイン ルックアップをインターフェイス上でイネーブルにしたまま **dns** コマンドを使用して到達可能なデフォルト DNS サーバを設定する必要があります。

■ ddns update method (グローバル コンフィギュレーション モード)

例 次の例は、ddns-2 という DDNS アップデート方式を設定します。

```
hostname(config)# ddns update method ddns-2
```

関連コマンド

コマンド	説明
ddns (DDNS アップデート方式モード)	作成済みの DDNS 方式に対して、DDNS アップデート方式のタイプを指定します。
ddns update (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	ダイナミック DNS (DDNS) のアップデート方式を、セキュリティ アプライアンス インターフェイスまたは DDNS アップデート ホスト名に関連付けます。
dhcp-client update dns	DHCP クライアントが DHCP サーバに渡すアップデートパラメータを設定します。
dhcpd update dns	DHCP サーバによるダイナミック DNS アップデートの実行をイネーブルにします。
interval maximum	DDNS アップデート方式によるアップデート試行の最大間隔を設定します。

debug aaa

AAA に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug aaa** コマンドを使用します。AAA メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug aaa [ accounting | authentication | authorization | internal | vpn [ level ] ]
```

```
no debug aaa
```

シンタックスの説明

accounting	(オプション) アカウンティングに関するデバッグ メッセージだけを表示します。
authentication	(オプション) 認証に関するデバッグ メッセージだけを表示します。
authorization	(オプション) 認可に関するデバッグ メッセージだけを表示します。
internal	(オプション) ローカル データベースだけでサポートされる AAA 機能に関するデバッグ メッセージを表示します。
level	(オプション) デバッグ レベルを指定します。 vpn キーワードと共に使用する場合だけ有効です。
vpn	(オプション) VPN 関連の AAA 機能に関するデバッグ メッセージだけを表示します。

デフォルト

デフォルトのレベルは 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドは、新しいキーワードを含めるように修正されました。

使用上のガイドライン

debug aaa コマンドは、AAA アクティビティに関する詳細な情報を表示します。**no debug all** コマンドまたは **undebug all** コマンドは、イネーブルなデバッグをすべてオフにします。

例

次の例では、ローカル データベースでサポートされる AAA 機能のデバッグをイネーブルにします。

```
hostname(config)# debug aaa internal
debug aaa internal enabled at level 1
hostname(config)# uap allocated. remote address: 10.42.15.172, Session_id: 2147483841
uap freed for user . remote address: 10.42.15.172, session id: 2147483841
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config aaa	AAA に関連する実行コンフィギュレーションを表示します。

debug appfw

アプリケーション検査に関する詳細情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug appfw** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug appfw [chunk | event | eventverb | regex]

no debug appfw [chunk | event | eventverb | regex]

シンタックスの説明

chunk	(オプション) チャンク分割転送形式のパケットの処理に関するランタイム情報を表示します。
event	(オプション) パケット検査イベントのデバッグ情報を表示します。
eventverb	(オプション) イベントの応答でセキュリティ アプライアンスが取るアクションを表示します。
regex	(オプション) 定義済みシグニチャに一致するパターンの情報を表示します。

デフォルト

デフォルトでは、すべてのオプションがイネーブルになっています。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

debug appfw コマンドは、HTTP アプリケーション検査に関する詳細情報を表示します。**no debug all** コマンドまたは **undebug all** コマンドは、イネーブルなデバッグをすべてオフにします。

例

次の例では、アプリケーション検査に関する詳細情報の表示をイネーブルにします。

```
hostname# debug appfw
```

関連コマンド

コマンド	説明
http-map	高度な HTTP 検査を設定するための HTTP マップを定義します。
inspect http	アプリケーション検査用に特定の HTTP マップを適用します。

debug arp

ARP に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug arp** コマンドを使用します。ARP に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug arp

no debug arp

シンタックスの説明 このコマンドには、引数もキーワードもありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン **debug** コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例 次の例では、ARP に関するデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug arp
```

関連コマンド

コマンド	説明
arp	スタティック ARP エントリを追加します。
show arp statistics	ARP 統計情報を表示します。
show debug	イネーブルなデバッグをすべて表示します。

debug arp-inspection

ARP 検査に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug arp-inspection** コマンドを使用します。ARP 検査に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug arp-inspection

no debug arp-inspection

シンタックスの説明 このコマンドには、引数もキーワードもありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	—	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **debug** コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例 次の例では、ARP 検査に関するデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug arp-inspection
```

関連コマンド

コマンド	説明
arp	スタティック ARP エントリを追加します。
arp-inspection	透過ファイアウォール モードで、ARP パケットを調べて ARP スプーフィングを防止します。
show debug	イネーブルなデバッグをすべて表示します。

debug asdm history

ASDM のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug asdm history** コマンドを使用します。

debug asdm history level

シンタックスの説明

level (オプション) デバッグ レベルを指定します。

デフォルト

デフォルトのレベルは 1 です。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドは、 debug pdm history コマンドから debug asdm history コマンドに変更されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

例

次の例では、ASDM に関するレベル 1 のデバッグをイネーブルにします。

```
hostname# debug asdm history
debug asdm history enabled at level 1

hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show asdm history	ASDM 履歴バッファの内容を表示します。

debug context

セキュリティ コンテキストを追加または削除する際にデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug context** コマンドを使用します。コンテキストに関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug context [*level*]

no debug context [*level*]

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	---

デフォルト デフォルトのレベルは 1 です。

コマンド モード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	—	—	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **debug** コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例 次の例では、コンテキスト管理に関するデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug context
```

関連コマンド	コマンド	説明
	context	システム コンフィギュレーションにセキュリティ コンテキストを作成し、コンテキスト コンフィギュレーション モードに入ります。
	show context	コンテキスト情報を表示します。
	show debug	イネーブルなデバッガをすべて表示します。

debug cplane

SSM に内部的に接続するコントロールプレーンに関するデバッグメッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug cplane** コマンドを使用します。制御プレーンに関するデバッグメッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug cplane [*level*]

no debug cplane [*level*]

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	--

デフォルト デフォルトのレベルは 1 です。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **debug** コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例 次の例では、コントロールプレーンに関するデバッグメッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug cplane
```

関連コマンド	コマンド	説明
	hw-module module recover	TFTP サーバからリカバリ イメージをロードすることにより、インテリジェント SSM を回復します。
	hw-module module reset	SSM をシャットダウンし、ハードウェア リセットを実行します。
	hw-module module reload	インテリジェント SSM ソフトウェアをリロードします。
	hw-module module shutdown	コンフィギュレーション データを失わずに電源を切るため、SSM ソフトウェアをシャットダウンします。
	show module	SSM 情報を表示します。

debug crypto ca

CA で使用する PKI アクティビティに関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug crypto ca** コマンドを使用します。PKI に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug crypto ca [**messages** | **transactions**] [*level*]

no debug crypto ca [**messages** | **transactions**] [*level*]

シンタックスの説明

messages	(オプション) PKI の入力および出力メッセージに関するデバッグ メッセージだけを表示します。
transactions	(オプション) PKI トランザクションに関するデバッグ メッセージだけを表示します。
<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。レベル 1 (デフォルト) では、エラーが発生した場合にだけメッセージが表示されます。レベル 2 では、警告が表示されます。レベル 3 では、情報メッセージが表示されます。レベル 4 以上では、トラブルシューティングのための追加情報が表示されます。

デフォルト

デフォルトでは、このコマンドはすべてのデバッグ メッセージを表示します。デフォルトのレベルは 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例

次の例では、PKI に関するデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug crypto ca
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug crypto engine	暗号化エンジンに関するデバッグ メッセージを表示します。
debug crypto ipsec	IPSec に関するデバッグ メッセージを表示します。
debug crypto isakmp	ISAKMP に関するデバッグ メッセージを表示します。

debug crypto engine

暗号化エンジンに関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug crypto engine** コマンドを使用します。暗号化エンジンに関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug crypto engine [*level*]

no debug crypto engine [*level*]

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	---

デフォルト デフォルトのレベルは 1 です。

コマンド モード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **debug** コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例 次の例では、暗号化エンジンに関するデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug crypto engine
```

関連コマンド	コマンド	説明
	debug crypto ca	CA に関するデバッグ メッセージを表示します。
	debug crypto ipsec	IPSec に関するデバッグ メッセージを表示します。
	debug crypto isakmp	ISAKMP に関するデバッグ メッセージを表示します。

debug crypto ipsec

IPSec に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug crypto ipsec** コマンドを使用します。IPSec に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug crypto ipsec [*level*]

no debug crypto ipsec [*level*]

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ～ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

デフォルトのレベルは 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例

次の例では、IPSec に関するデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug crypto ipsec
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug crypto ca	CA に関するデバッグ メッセージを表示します。
debug crypto engine	暗号化エンジンに関するデバッグ メッセージを表示します。
debug crypto isakmp	ISAKMP に関するデバッグ メッセージを表示します。

debug crypto isakmp

ISAKMP に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug crypto isakmp** コマンドを使用します。ISAKMP に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug crypto isakmp [timers] [level]

no debug crypto isakmp [timers] [level]

シンタックスの説明

timers	(オプション) ISAKMP タイマーの期限切れに関するデバッグ メッセージを表示します。
level	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。レベル 1 (デフォルト) では、エラーが発生した場合にだけメッセージが表示されます。レベル 2 ~ 7 では、追加情報が表示されます。レベル 254 では、復号化された ISAKMP パケットが、人が読める形式で表示されます。レベル 255 では、復号化された ISAKMP パケットの 16 進形式のダンプが表示されます。

デフォルト

デフォルトのレベルは 1 です。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例

次の例では、ISAKMP に関するデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug crypto isakmp
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug crypto ca	CA に関するデバッグ メッセージを表示します。
debug crypto engine	暗号化エンジンに関するデバッグ メッセージを表示します。
debug crypto ipsec	IPSec に関するデバッグ メッセージを表示します。

debug ctiqbe

CTIQBE アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug ctiqbe** コマンドを使用します。CTIQBE アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug ctiqbe [*level*]

no debug ctiqbe [*level*]

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注)

debug ctiqbe コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

例

次の例では、CTIQBE アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug ctiqbe
```

関連コマンド

コマンド	説明
inspect ctiqbe	CTIQBE アプリケーション検査をイネーブルにします。
show ctiqbe	セキュリティ アプライアンスを介して確立された CTIQBE セッションに関する情報を表示します。
show conn	さまざまな接続タイプの接続状態を表示します。
timeout	さまざまなプロトコルおよびセッション タイプのアイドル状態の最大継続時間を設定します。

debug ddns

DNS に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug dns** コマンドを使用します。デバッグ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug ddns

no debug ddns

シンタックスの説明 このコマンドには、引数もキーワードもありません。

デフォルト デフォルトの動作または値が設定されています。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	•	—

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **debug http** コマンドは、DDNS に関する詳細情報を表示します。**undebug ddns** は **no debug ddns** コマンドと同様、DDNS デバッグ情報をオフにします。

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例 次の例は、DDNS デバッグ メッセージをイネーブルにする例を示します。

```
hostname# debug ddns
debug ddns enabled at level 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
ddns (DDNS アップデート方式モード)	作成済みの DDNS 方式に対して、DDNS アップデート方式のタイプを指定します。
ddns update (インターフェイス コンフィギュレーションモード)	ダイナミック DNS (DDNS) のアップデート方式を、セキュリティ アプライアンス インターフェイスまたは DDNS アップデート ホスト名に関連付けます。
ddns update method (グローバル コンフィギュレーションモード)	DNS のリソース レコードを動的にアップデートするための方式を作成します。
show running-config ddns	実行コンフィギュレーションに含まれている、設定済みのすべての DDNS 方式について、タイプおよび間隔を表示します。

debug dhcpc

DHCP クライアントのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug dhcpc** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dhcpc {detail | packet | error} [level]
```

```
no debug dhcpc {detail | packet | error} [level]
```

シンタックスの説明

detail	DHCP クライアントに関連する詳細なイベント情報を表示します。
error	DHCP クライアントに関連するエラー メッセージを表示します。
level	(オプション) デバッグ レベルを指定します。有効な値は 1 ～ 255 です。
packet	DHCP クライアントに関連するパケット情報を表示します。

デフォルト

デフォルトのデバッグ レベルは 1 です。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

DHCP クライアントのデバッグ情報を表示します。

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、DHCP クライアントに関するデバッグをイネーブルにする方法を示しています。

```
hostname# debug dhcpc detail 5
debug dhcpc detail enabled at level 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ip address dhcp	インターフェイスの DHCP リースに関する詳細な情報を表示します。
show running-config interface	指定されたインターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。

debug dhcpd

DHCP サーバのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug dhcpd** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dhcpd {event | packet} [level]
```

```
no debug dhcpd {event | packet} [level]
```

シンタックスの説明

<i>event</i>	DHCP サーバに関連するイベント情報を表示します。
<i>level</i>	(オプション) デバッグ レベルを指定します。有効な値は 1 ～ 255 です。
<i>packet</i>	DHCP サーバに関連するパケット情報を表示します。

デフォルト

デフォルトのデバッグ レベルは 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug dhcpd event コマンドは、DHCP サーバに関するイベント情報を表示します。**debug dhcpd packet** コマンドは、DHCP サーバに関するパケット情報を表示します。

debug dhcpd コマンドの **no** 形式を使用して、デバッグをディセーブルにします。

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

例

次の例では、DHCP イベント デバッグをイネーブルにする例を示します。

```
hostname# debug dhcpd event
debug dhcpd event enabled at level 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show dhcpd	DHCP のバインディング、統計情報、または状態情報を表示します。
show running-config dhcpd	現在の DHCP サーバ コンフィギュレーションを表示します。

debug dhcpd ddns

DHCP DDNS のデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug dhcpd** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dhcpd ddns [level]
```

```
no debug dhcpd ddns [level]
```

シンタックスの説明 *level* (オプション) デバッグ レベルを指定します。有効な値は 1 ～ 255 です。

デフォルト デフォルトのデバッグ レベルは 1 です。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **debug dhcpd ddns** コマンドは DHCP および DDNS に関する詳細を表示します。**undebug dhcpd ddns** コマンドは、**no debug dhcpd ddns** コマンドと同様、DHCP および DDNS デバッグ情報をオフにします。

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

例 次の例では、イネーブルである DHCP DDNS デバッグを示します。

```
hostname# debug dhcpd ddns
debug dhcpd ddns enabled at level 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
dhcpd update dns	DHCP サーバによるダイナミック DNS アップデートの実行をイネーブルにします。
show running-config dhcpd	現在の DHCP サーバ コンフィギュレーションを表示します。
show running-config ddns	実行コンフィギュレーションの DDNS アップデート方式を表示します。

debug dhcprelay

DHCP リレー サーバのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug dhcprelay** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dhcprelay {event | packet | error} [level]
```

```
no debug dhcprelay {event | packet | error} [level]
```

シンタックスの説明

error	DHCP リレー エージェントに関連するエラー メッセージを表示します。
event	DHCP リレー エージェントに関連するイベント情報を表示します。
level	(オプション) デバッグ レベルを指定します。有効な値は 1 ～ 255 です。
packet	DHCP リレー エージェントに関連するパケット情報を表示します。

デフォルト

デフォルトのデバッグ レベルは 1 です。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

例

次の例は、DHCP リレー エージェントのエラー メッセージのデバッグをイネーブルにする方法を示しています。

```
hostname# debug dhcprelay error
debug dhcprelay error enabled at level 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear configure dhcprelay	DHCP リレー エージェントの設定をすべて削除します。
clear dhcprelay statistics	DHCP リレー エージェント統計情報カウンタを消去します。
show dhcprelay statistics	DHCP リレー エージェントの統計情報を表示します。
show running-config dhcprelay	現在の DHCP リレー エージェント コンフィギュレーションを表示します。

debug disk

ファイル システムのデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug disk** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug disk {file | file-verbose | filesystem} [level]
```

```
no debug disk {file | file-verbose | filesystem}
```

シンタックスの説明

<i>file</i>	ファイル レベルでのディスクのデバッグ メッセージをイネーブルにします。
<i>file-verbose</i>	ファイル レベルでの詳細なディスクのデバッグ メッセージをイネーブルにします。
<i>filesystem</i>	ファイル システムのデバッグ メッセージをイネーブルにします。
<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

例 次の例では、ファイル レベルでのディスクのデバッグ メッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、ファイル レベルでのディスク デバッグ メッセージがイネーブルになっていることを示します。**dir** コマンドを実行すると、いくつかのデバッグ メッセージが作成されます。

```
hostname# debug disk file
debug disk file enabled at level 1
hostname# show debug
debug vpn-sessiondb enabled at level 1
hostname# dir
IFS: Opening: file flash:/, flags 1, mode 0
IFS: Opened: file flash:/ as fd 3
IFS: Getdent: fd 3
IFS: Getdent: fd 3
IFS: Getdent: fd 3
IFS: Getdent: fd 3

Directory of flash:/
IFS: Close: fd 3
IFS: Opening: file flash:/, flags 1, mode 0

 4  -rw- 5124096      14:42:27 Apr 04 2005  cdisk.binIFS: Opened: file flash:/ as
fd 3

 9  -rw- 5919340      14:53:39 Apr 04 2005  ASDMIIFS: Getdent: fd 3

11  drw- 0           15:18:56 Apr 21 2005  syslog
IFS: Getdent: fd 3
IFS: Getdent: fd 3
IFS: Getdent: fd 3
IFS: Close: fd 3

16128000 bytes total (5047296 bytes free)
```

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug dns

DNS に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug dns** コマンドを使用します。DNS に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dns [resolver | all] [level]
```

```
no debug dns [resolver | all] [level]
```

シンタックスの説明	level	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
	resolver	(オプション) DNS リゾルバ メッセージだけを表示します。
	all	(デフォルト) DNS キャッシュに関するメッセージを含む、すべてのメッセージを表示します。

デフォルト デフォルトのレベルは 1 です。キーワードを指定しない場合、セキュリティ アプライアンスはすべてのメッセージを表示します。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **debug** コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例 次の例では、DNS のデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug dns
```

関連コマンド	コマンド	説明
	class-map	セキュリティ アクションを適用する先のトラフィック クラスを定義します。
	inspect dns	DNS アプリケーション検査をイネーブルにします。
	policy-map	クラス マップを特定のセキュリティ アクションに関連付けます。
	service-policy	1 つまたは複数のインターフェイスにポリシー マップを適用します。

debug eap

ネットワーク アドミッション コントロール メッセージをデバッグするため、EAP イベントのログをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug eap** コマンドを使用します。EAP デバッグ メッセージのログをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug eap {all | errors | events | packets | sm}
```

```
no debug eap [all | errors | events | packets | sm]
```

シンタックスの説明

all	すべての EAP 情報に関するデバッグ メッセージのログをイネーブルにします。
errors	EAP パケット エラーのログをイネーブルにします。
events	EAP セッション イベントのログをイネーブルにします。
packets	EAP パケット情報に関するデバッグ メッセージのログをイネーブルにします。
sm	EAP ステート マシンの情報に関するデバッグ メッセージのログをイネーブルにします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、セキュリティ アプライアンスは EAP セッションの状態の変化とステータス クエリー イベントを記録し、16 進形式で EAP の完全なレコードとパケットの内容を生成します。

デバッグ出力に高優先順位を割り当てることで、システムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、すべての EAP セッション イベントのログをイネーブルにします。

```
hostname# debug eap events
hostname#
```

次の例では、すべての EAP デバッグ メッセージのロギングをイネーブルにします。

```
hostname# debug eap all
hostname#
```

次の例では、すべての EAP デバッグ メッセージのロギングをディセーブルにします。

```
hostname# no debug eap
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug eou	NAC メッセージをデバッグするための EAP over UDP (EAPoUDP) イベントのロギングをイネーブルにします。
debug nac	NAC イベントのロギングをイネーブルにします。
eou initialize	1 つまたはそれ以上の NAC セッションに割り当てられているリソースを消去し、新しい無条件のポスチャ確認をセッションごとに開始します。
eou revalidate	1 つまたはそれ以上の NAC セッションのポスチャ再確認をただちに強制します。
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug entity

管理情報ベース (MIB) のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug entity** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディisableするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug entity [*level*]

no debug entity

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	--

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例 次の例では、MIB デバッグメッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、MIB デバッグメッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug entity
debug entity enabled at level 1
hostname# show debug
debug entity enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug eou

ネットワーク アドミッション コントロール メッセージをデバッグするための EAP over UDP (EAPoUDP) イベントのロギングをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug eou** コマンドを使用します。EAPoUDP デバッグ メッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug eou {all | eap | errors | events | packets | sm}
```

```
no debug eou [all | eap | errors | events | packets | sm]
```

シンタックスの説明

all	すべての EAPoUDP 情報に関するデバッグ メッセージのロギングをイネーブルにします。
eap	EAPoUDP パケットに関するデバッグ メッセージのロギングをイネーブルにします。
errors	EAPoUDP パケット エラーのロギングをイネーブルにします。
events	EAPoUDP セッション イベントのロギングをイネーブルにします。
packets	EAPoUDP パケット情報に関するデバッグ メッセージのロギングをイネーブルにします。
sm	EAPoUDP ステート マシン情報に関するデバッグ メッセージのロギングをイネーブルにします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、セキュリティ アプライアンスは EAPoUDP セッションの状態の変化と タイマー イベントを記録し、16 進形式で EAPoUDP ヘッダーの完全なレコードとパケットの内容を生成します。

デバッグ出力に高優先順位を割り当てることで、システムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例 次の例では、すべての EAPoUDP セッション イベントのログギングをイネーブルにします。

```
hostname# debug eou events
hostname#
```

次の例では、すべての EAPoUDP デバッグ メッセージのログギングをイネーブルにします。

```
hostname# debug eou all
hostname#
```

次の例では、すべての EAPoUDP デバッグ メッセージのログギングをディセーブルにします。

```
hostname# no debug eou
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug eap	NAC メッセージをデバッグするための EAP イベントのログギングをイネーブルにします。
debug nac	NAC イベントのログギングをイネーブルにします。
eou initialize	1 つまたはそれ以上の NAC セッションに割り当てられているリソースを消去し、新しい無条件のポストチャ確認をセッションごとに開始します。
eou revalidate	1 つまたはそれ以上の NAC セッションのポストチャ再確認をただちに強制します。
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug esmtp

SMTP/ESMTP アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug esmtp** コマンドを使用します。SMTP/ESMTP アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug esmtp[*level*]

no debug esmtp [*level*]

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注)

debug esmtp コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

例

次の例では、SMTP/ESMTP アプリケーション検査に対するデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug esmtp
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	セキュリティ アクションを適用する先のトラフィック クラスを定義します。
inspect esmtp	ESMTP アプリケーション検査をイネーブルにします。
policy-map	クラス マップを特定のセキュリティ アクションに関連付けます。
service-policy	1 つまたは複数のインターフェイスにポリシー マップを適用します。
show conn	SMTP など、さまざまな接続タイプの接続状態を表示します。

debug fixup

アプリケーション検査に関する詳細情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug fixup** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug fixup

no debug fixup

デフォルト

デフォルトでは、すべてのオプションがイネーブルになっています。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug fixup コマンドは、アプリケーション検査に関する詳細情報を表示します。**no debug all** コマンドまたは **undebug all** コマンドは、イネーブルなデバッグをすべてオフにします。

例

次の例では、アプリケーション検査に関する詳細情報の表示をイネーブルにします。

```
hostname# debug fixup
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	セキュリティ アクションを適用する先のトラフィック クラスを定義します。
inspect protocol	特定のプロトコルに関するアプリケーション検査をイネーブルにします。
policy-map	クラス マップを特定のセキュリティ アクションに関連付けます。

debug fover

フェールオーバーのデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug fover** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug fover {cable | fail | fmsg | ifc | open | rx | rxdmp | rxip | switch | sync | tx | txdmp | txip | verify}
```

```
no debug fover {cable | fail | fmsg | ifc | open | rx | rxdmp | rxip | switch | sync | tx | txdmp | txip | verify}
```

シンタックスの説明

<i>cable</i>	フェールオーバーの LAN ステータスまたはシリアル ケーブル ステータス
<i>fail</i>	フェールオーバー内部例外
<i>fmsg</i>	フェールオーバー メッセージ
<i>ifc</i>	ネットワーク インターフェイス ステータス トレース
<i>open</i>	フェールオーバー デバイス オープン
<i>rx</i>	フェールオーバー メッセージ受信
<i>rxdmp</i>	フェールオーバー受信メッセージ ダンプ (シリアル コンソールのみ)
<i>rxip</i>	IP ネットワーク フェールオーバー パケット受信
<i>switch</i>	フェールオーバー スイッチング ステータス
<i>sync</i>	フェールオーバー コンフィギュレーション、またはコマンド複製
<i>tx</i>	フェールオーバー メッセージ送信
<i>txdmp</i>	フェールオーバー送信メッセージ ダンプ (シリアル コンソールのみ)
<i>txip</i>	IP ネットワーク フェールオーバー パケット送信
<i>verify</i>	フェールオーバー メッセージの確認

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが変更されました。このコマンドには、追加のデバッグ キーワードが含まれています。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

■ debug fover

例

次の例は、フェールオーバー コマンド複製のデバッグ情報を表示する方法を示しています。

```
hostname# debug fover sync
fover event trace on
```

関連コマンド

コマンド	説明
show failover	フェールオーバー コンフィギュレーションに関する情報および動作統計情報を表示します。

debug fsm

FSM のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug fsm** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug fsm [*level*]

no debug fsm

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、FSM デバッグ メッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、FSM デバッグ メッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug fsm
debug fsm enabled at level 1
hostname# show debug
debug fsm enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug ftp client

FTP に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug ftp client** コマンドを使用します。FTP に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug ftp client [*level*]

no debug ftp client [*level*]

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	---

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンド モード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴	リリース	変更内容
	既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注) **debug ftp client** コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

例 次の例では、FTP のデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug ftp client
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy	イメージファイルまたはコンフィギュレーションファイルを FTP サーバとの間でアップロードまたはダウンロードします。
	ftp mode passive	FTP セッションのモードを設定します。
	show running-config ftp mode	FTP クライアントのコンフィギュレーションを表示します。

debug generic

その他のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug generic** コマンドを使用します。その他のデバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug generic [*level*]

no debug generic

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、その他のデバッグメッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、その他のデバッグメッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug generic
debug generic enabled at level 1
hostname# show debug
debug generic enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug gtp

GTP 検査に関する詳細情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug gtp** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug gtp [error | event | ha | parser]

no debug gtp [error | event | ha | parser]

シンタックスの説明

error	GTP メッセージの処理中に発生したエラーのデバッグ情報を表示します。
event	GTP イベントのデバッグ情報を表示します。
ha option	GTP HA イベントに関する情報をデバッグします。
parser	GTP メッセージの解析のデバッグ情報を表示します。

デフォルト

デフォルトでは、すべてのオプションがイネーブルになっています。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

debug gtp コマンドは、GTP 検査に関する詳細情報を表示します。**no debug all** コマンドまたは **undebug all** コマンドは、イネーブルなデバッグをすべてオフにします。



(注) GTP 検査には、特別なライセンスが必要です。

例

次の例では、GTP 検査に関する詳細情報の表示をイネーブルにします。

```
hostname# debug gtp
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear service-policy inspect gtp	グローバル GTP 統計情報を消去します。
gtp-map	GTP マップを定義し、GTP マップ コンフィギュレーション モードをイネーブルにします。
inspect gtp	アプリケーション検査用に GTP マップを適用します。
show service-policy inspect gtp	GTP コンフィギュレーションを表示します。
show running-config gtp-map	設定されている GTP マップを表示します。

debug h323

H.323 に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug h323** コマンドを使用します。H.323 に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug h323 {h225 | h245 | ras} [asn | event]
```

```
no debug h323 {h225 | h245 | ras} [asn | event]
```

シンタックスの説明

h225	H.225 シグナリングを指定します。
h245	H.245 シグナリングを指定します。
ras	登録、許可、およびステータスのプロトコルを指定します。
asn	(オプション) デコードされたプロトコルデータ ユニット (PDU) の出力を表示します。
event	(オプション) シグナリングのイベントを表示するか、両方のトレースをオンにします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注)

debug h323 コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

例

次の例では、H.225 シグナリングのデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug h323 h225
```

関連コマンド

コマンド	説明
inspect h323	H.323 アプリケーション検査をイネーブルにします。
show h225	セキュリティ アプライアンスを越えて確立された H.225 セッションの情報を表示します。
show h245	スロースタートを使用しているエンドポイントがセキュリティ アプライアンスを越えて確立した H.245 セッションの情報を表示します。
show h323-ras	セキュリティ アプライアンスを越えて確立された H.323 RAS セッションの情報を表示します。
timeout h225 h323	H.225 シグナリング接続または H.323 制御接続が終了するまでのアイドル時間を設定します。

debug http

HTTP トラフィックに関する詳細情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug http** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug http [*level*]

no debug http [*level*]

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	--

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **debug http** コマンドは、HTTP トラフィックに関する詳細情報を表示します。**no debug all** コマンドまたは **undebug all** コマンドは、イネーブルなデバッグをすべてオフにします。

例 次の例では、HTTP トラフィックに関する詳細情報の表示をイネーブルにします。

```
hostname# debug http
```

関連コマンド	コマンド	説明
	http	セキュリティ アプライアンスの内部の HTTP サーバにアクセス可能なホストを指定します。
	http-proxy	HTTP プロキシサーバを設定します。
	http redirect	HTTP トラフィックを HTTPS にリダイレクトします。
	http server enable	セキュリティ アプライアンス HTTP サーバをイネーブルにします。

debug http-map

HTTP アプリケーション検査マップに関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug http-map** コマンドを使用します。HTTP アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug http-map

no debug http-map

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注) **debug http-map** コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

例 次の例では、HTTP アプリケーション検査のデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug http-map
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	セキュリティ アクションを適用する先のトラフィック クラスを定義します。
debug appfw	HTTP アプリケーション検査に関する詳細情報を表示します。
http-map	高度な HTTP 検査を設定するための HTTP マップを定義します。
inspect http	アプリケーション検査用に特定の HTTP マップを適用します。
policy-map	クラス マップを特定のセキュリティ アクションに関連付けます。

debug icmp

ICMP 検査に関する詳細情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug icmp** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug icmp trace [level]

no debug icmp trace [level]

シンタックスの説明

trace	ICMP トレース アクティビティのデバッグ情報を表示します。
level	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

すべてのオプションがイネーブルになっています。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

debug icmp コマンドは、ICMP 検査に関する詳細情報を表示します。**no debug all** コマンドまたは **undebug all** コマンドは、イネーブルなデバッグをすべてオフにします。

例

次の例では、ICMP 検査に関する詳細情報の表示をイネーブルにします。

```
hostname# debug icmp
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear configure icmp	ICMP コンフィギュレーションを消去します。
icmp	セキュリティ アプライアンス インターフェイスで終端する ICMP トラフィックに対して、アクセス規則を設定します。
show conn	さまざまなプロトコルおよびセッションタイプについて、セキュリティ アプライアンスを介した接続状態を表示します。
show icmp	ICMP コンフィギュレーションを表示します。
timeout icmp	ICMP のアイドルタイムアウトを設定します。

debug igmp

IGMP のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug igmp** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug igmp [group group_id | interface if_name]
```

```
no debug igmp [group group_id | interface if_name]
```

シンタックスの説明

<i>group group_id</i>	指定されたグループの IGMP デバッグ情報を表示します。
<i>interface if_name</i>	指定されたインターフェイスの IGMP デバッグ情報を表示します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次に、**debug igmp** コマンドの出力例を示します。

```
hostname#debug igmp

IGMP debugging is on
IGMP: Received v2 Query on outside from 192.168.3.2
IGMP: Send v2 general Query on dmz
IGMP: Received v2 Query on dmz from 192.168.4.1
IGMP: Send v2 general Query on outside
IGMP: Received v2 Query on outside from 192.168.3.1
IGMP: Send v2 general Query on inside
IGMP: Received v2 Query on inside from 192.168.1.1
IGMP: Received v2 Report on inside from 192.168.1.6 for 224.1.1.1
IGMP: Updating EXCLUDE group timer for 224.1.1.1
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show igmp groups</code>	セキュリティ アプライアンスに直接接続されている受信者、および IGMP を通じてラーニングされた受信者を持つマルチキャスト グループを表示します。
<code>show igmp interface</code>	インターフェイスのマルチキャスト情報を表示します。

debug ils

ILS に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug ils** コマンドを使用します。ILS に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug ils [*level*]

no debug ils [*level*]

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ～ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注)

debug ils コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

例

次の例では、ILS アプリケーション検査のデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug ils
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	セキュリティアクションを適用する先のトラフィッククラスを定義します。
inspect ils	ILS アプリケーション検査をイネーブルにします。
policy-map	クラス マップを特定のセキュリティ アクションに関連付けます。
service-policy	1 つまたは複数のインターフェイスにポリシー マップを適用します。

debug imagemgr

Image Manager のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug imagemgr** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug imagemgr [*level*]

no debug imagemgr

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	--

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例 次の例では、Image Manager デバッグ メッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、Image Manager のデバッグ メッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug imagemgr
debug imagemgr enabled at level 1
hostname# show debug
debug imagemgr enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug ipsec-over-tcp

IPSec-over-TCP のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug ipsec-over-tcp** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug ipsec-over-tcp [*level*]

no debug ipsec-over-tcp

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	--

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例 次の例では、IPSec-over-TCP のデバッグメッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、IPSec-over-TCP のデバッグメッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug ipsec-over-tcp
debug ipsec-over-tcp enabled at level 1
hostname# show debug
debug ipsec-over-tcp enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug ipv6

ipv6 のデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug ipv6** コマンドを使用します。デバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ipv6 {icmp | interface | nd | packet | routing}
```

```
no debug ipv6 {icmp | interface | nd | packet | routing}
```

シンタックスの説明

icmp	ICMPv6 近隣探索トランザクションを除外した、IPv6 ICMP トランザクションに関するデバッグ メッセージを表示します。
interface	IPv6 インターフェイスに関するデバッグ情報を表示します。
nd	ICMPv6 近隣探索トランザクションに関するデバッグ メッセージを表示します。
packet	IPv6 パケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
routing	IPv6 のルーティング テーブル アップデートおよびルート キャッシュ アップデートに関するデバッグ情報を表示します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次に、**debug ipv6 icmp** コマンドの出力例を示します。

```
hostname# debug ipv6 icmp
13:28:40:ICMPv6:Received ICMPv6 packet from 2000:0:0:3::2, type 136
13:28:45:ICMPv6:Received ICMPv6 packet from FE80::203:A0FF:FED6:1400, type 135
13:28:50:ICMPv6:Received ICMPv6 packet from FE80::203:A0FF:FED6:1400, type 136
13:28:55:ICMPv6:Received ICMPv6 packet from FE80::203:A0FF:FED6:1400, type 135
```

関連コマンド

コマンド	説明
ipv6 icmp	セキュリティ アプライアンス インターフェイスで終端する ICMP メッセージのアクセス規則を設定します。
ipv6 address	IPv6 アドレスに対するインターフェイスを設定します。
ipv6 nd dad attempts	重複アドレスの検出中に実行される、近隣探索の試行回数を定義します。
ipv6 route	IPv6 ルーティング テーブルにスタティック エントリを定義します。

debug iua-proxy

個々のユーザ認証 (IUA) プロキシのデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug iua-proxy** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug iua-proxy [level]
```

```
no debug iua-proxy
```

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、IUA プロキシのデバッグ メッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、IUA プロキシのデバッグ メッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug iua-proxy
debug iua-proxy enabled at level 1
hostname# show debug
debug iua-proxy enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug kerberos

Kerberos 認証のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug kerberos** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug kerberos [*level*]

no debug kerberos

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	--

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカルサポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例 次の例では、Kerberos のデバッグメッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、Kerberos のデバッグメッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug kerberos
debug kerberos enabled at level 1
hostname# show debug
debug kerberos enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug l2tp

L2TP のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug l2tp** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug l2tp {data | error | event | packet} level

no debug l2tp {data | error | event | packet} level

シンタックスの説明

data	データ パケット トレース情報を表示します。
error	エラー イベントを表示します。
event	L2TP 接続イベントを表示します。
packet	パケット トレース情報を表示します。
level	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では接続イベントの L2TP デバッグ メッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、L2TP のデバッグ メッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug l2tp event 1
hostname# show debug
debug l2tp event enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug ldap

LDAP のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug ldap** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug ldap [*level*]

no debug ldap

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、LDAP のデバッグメッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、LDAP のデバッグメッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug ldap
debug ldap enabled at level 1
hostname# show debug
debug ldap enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug mac-address-table

MAC アドレス テーブルに関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug mac-address-table** コマンドを使用します。MAC アドレス テーブルに関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug mac-address-table [*level*]

no debug mac-address-table [*level*]

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

デフォルトのレベルは 1 です。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	—	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

debug コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例

次の例では、MAC アドレス テーブルのデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug mac-address-table
```

関連コマンド

コマンド	説明
mac-address-table aging-time	ダイナミック MAC アドレス エントリのタイムアウトを設定します。
mac-address-table static	MAC アドレス テーブルにスタティック MAC アドレス エントリを追加します。
mac-learn	MAC アドレス ラーニングをディセーブルにします。
show debug	イネーブルなデバッグをすべて表示します。
show mac-address-table	MAC アドレス テーブルのエントリを表示します。

debug menu

特定機能の詳細なデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug menu** コマンドを使用します。

debug menu



注意

debug menu コマンドは、シスコのテクニカル サポート スタッフの指導の下で使用する必要があります。

シンタックスの説明

このコマンドは、シスコテクニカル サポート スタッフの指導の下で使用する必要があります。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト	
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ
			コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

例

このコマンドは、シスコテクニカル サポート スタッフの指導の下で使用する必要があります。

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug mfib

MFIB のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug mfib** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug mfib {db | init | mrrib | pak | ps | signal} [group]
```

```
no debug mfib {db | init | mrrib | pak | ps | signal} [group]
```

シンタックスの説明

db	(オプション) ルート データベース動作のデバッグ情報を表示します。
group	(オプション) マルチキャストグループの IP アドレス。
init	(オプション) システムの初期化アクティビティを表示します。
mrrib	(オプション) MRIB との通信のデバッグ情報を表示します。
pak	(オプション) パケット フォワーディング動作のデバッグ情報を表示します。
ps	(オプション) プロセス スイッチング動作のデバッグ情報を表示します。
signal	(オプション) ルーティング プロトコルへの MFIB シグナリングのデバッグ情報を表示します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、MFIB データベース動作のデバッグ情報を表示します。

```
hostname# debug mfib db
MFIB IPv4 db debugging enabled
```

関連コマンド

コマンド	説明
show mfib	MFIB の転送エントリおよびインターフェイスを表示します。

debug mgcp

MGCP アプリケーション検査に関する詳細情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug mgcp** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug mgcp {messages | parser | sessions}
```

```
no debug mgcp {messages | parser | sessions}
```

messages	MGCP メッセージのデバッグ情報を表示します。
parser	MGCP メッセージ解析のデバッグ情報を表示します。
sessions	MGCP セッションに関するデバッグ情報を表示します。

デフォルト

すべてのオプションがイネーブルになっています。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

debug mgcp コマンドは、mgcp 検査に関する詳細情報を表示します。**no debug all** コマンドまたは **undebug all** コマンドは、イネーブルなデバッグをすべてオフにします。

例

次の例では、MGCP アプリケーション検査に関する詳細情報の表示をイネーブルにします。

```
hostname# debug mgcp
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	セキュリティ アクションを適用する先のトラフィック クラスを定義します。
inspect mgcp	MGCP アプリケーション検査をイネーブルにします。
mgcp-map	MGCP マップを定義し、MGCP マップ コンフィギュレーション モードをイネーブルにします。
show mgcp	セキュリティ アプライアンスを介して確立された MGCP セッションに関する情報を表示します。
show conn	さまざまな接続タイプの接続状態を表示します。

debug module-boot

SSM ブーティング プロセスに関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug module-boot** コマンドを使用します。SSM ブーティング プロセスに関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug module-boot [*level*]

no debug module-boot [*level*]

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	---

デフォルト デフォルトのレベルは 1 です。

コマンド モード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **debug** コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例 次の例では、SSM ブーティング プロセスに関するデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug module-boot
```

関連コマンド	コマンド	説明
	hw-module module recover	TFTP サーバからリカバリ イメージをロードすることにより、インテリジェント SSM を回復します。
	hw-module module reset	SSM をシャットダウンし、ハードウェア リセットを実行します。
	hw-module module reload	インテリジェント SSM ソフトウェアをリロードします。
	hw-module module shutdown	コンフィギュレーション データを失わずに電源を切るため、SSM ソフトウェアをシャットダウンします。
	show module	SSM 情報を表示します。

debug mrrib

MRIB のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug mrrib** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug mrrib {client | io | route [group] | table}
```

```
no debug mrrib {client | io | route [group] | table}
```

シンタックスの説明

<i>client</i>	MRIB クライアント管理アクティビティのデバッグをイネーブルにします。
<i>io</i>	MRIB I/O イベントのデバッグをイネーブルにします。
<i>route</i>	MRIB ルーティング エントリ アクティビティのデバッグをイネーブルにします。
<i>group</i>	指定グループでの MRIB ルーティング エントリ アクティビティのデバッグをイネーブルにします。
<i>table</i>	MRIB テーブル管理アクティビティのデバッグをイネーブルにします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、MRIB I/O イベントのデバッグをイネーブルにする方法を示しています。

```
hostname# debug mrrib io
IPv4 MRIB io debugging is on
```

関連コマンド

コマンド	説明
show mrrib client	MRIB クライアント接続に関する情報を表示します。
show mrrib route	MRIB テーブルのエントリを表示します。

debug nac

ネットワーク アドミッション コントロール イベントのロギングをイネーブルにするには、特権モードで、**debug nac** コマンドを使用します。NAC デバッグ メッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug nac {all | auth | errors | events}
```

```
no debug nac [all | auth | errors | events]
```

シンタックスの説明	説明
all	すべての NAC 情報に関するデバッグ メッセージのロギングをイネーブルにします。
auth	NAC 認証要求と応答に関するデバッグ メッセージのロギングをイネーブルにします。
errors	NAC セッション エラーのロギングをイネーブルにします。
events	NAC セッション イベントのロギングをイネーブルにします。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、セキュリティ アプライアンスは次の NAC イベントのタイプ: 初期化、例外リスト一致、ACS トランザクション、クライアントレス認証、デフォルト ACL の適用、および再確認をログに記録します。

デバッグ出力に高優先順位を割り当てることで、システムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカルサポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例 次の例では、すべての NAC セッション イベントのロギングをイネーブルにします。

```
hostname# debug nac events
hostname#
```

■ debug nac

次の例では、すべての NAC デバッグ メッセージのロギングをイネーブルにします。

```
hostname# debug nac all
hostname#
```

次の例では、すべての NAC デバッグ メッセージのロギングをディセーブルにします。

```
hostname# no debug nac
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug eap	NAC メッセージをデバッグするための EAP イベントのロギングをイネーブルにします。
debug eou	NAC メッセージをデバッグするための EAP over UDP (EAPoUDP) イベントのロギングをイネーブルにします。
eou initialize	1 つまたはそれ以上の NAC セッションに割り当てられているリソースを消去し、新しい無条件のポストチャ確認をセッションごとに開始します。
eou revalidate	1 つまたはそれ以上の NAC セッションのポストチャ再確認をただちに強制します。
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug ntdomain

NT ドメイン認証のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug ntdomain** コマンドを使用します。NT ドメインのデバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug ntdomain [*level*]

no debug ntdomain

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	--

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例 次の例では、NT ドメインのデバッグメッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、NT ドメインのデバッグメッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug ntdomain
debug ntdomain enabled at level 1
hostname# show debug
debug ntdomain enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug ntp

NTP に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug ntp** コマンドを使用します。NTP に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ntp {adjust | authentication | events | loopfilter | packets | params | select | sync | validity}
```

```
no debug ntp {adjust | authentication | events | loopfilter | packets | params | select | sync | validity}
```

シンタックスの説明

adjust	NTP クロック調整に関するメッセージを表示します。
authentication	NTP 認証に関するメッセージを表示します。
events	NTP イベントに関するメッセージを表示します。
loopfilter	NTP ループ フィルタに関するメッセージを表示します。
packets	NTP パケットに関するメッセージを表示します。
params	NTP クロック パラメータに関するメッセージを表示します。
select	NTP クロック セレクションに関するメッセージを表示します。
sync	NTP クロック同期に関するメッセージを表示します。
validity	NTP ピア クロックの有効性に関するメッセージを表示します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例

次の例では、NTP に関するデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug ntp events
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp authenticate	NTP 認証をイネーブルにします。
ntp server	NTP サーバを指定します。
show debug	イネーブルなデバッグをすべて表示します。
show ntp associations	セキュリティ アプライアンスが関連付けられている NTP サーバを表示します。
show ntp status	NTP アソシエーションのステータスを表示します。

debug ospf

OSPF ルーティング プロセスのデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug ospf** コマンドを使用します。

```
debug ospf [adj | database-timer | events | flood | lsa-generation | packet | retransmission | spf [external
| inter | intra] | tree]
```

```
no debug ospf [adj | database-timer | events | flood | lsa-generation | packet | retransmission | spf
[external | inter | intra] | tree]
```

シンタックスの説明

<i>adj</i>	(オプション) OSPF 隣接イベントのデバッグをイネーブルにします。
<i>database-timer</i>	(オプション) OSPF タイマー イベントのデバッグをイネーブルにします。
<i>events</i>	(オプション) OSPF イベントのデバッグをイネーブルにします。
<i>external</i>	(オプション) SPF デバッグを外部イベントに制限します。
<i>flood</i>	(オプション) OSPF フラッディングのデバッグをイネーブルにします。
<i>inter</i>	(オプション) SPF デバッグをエリア間イベントに制限します。
<i>intra</i>	(オプション) SPF デバッグをエリア内イベントに制限します。
<i>lsa-generation</i>	(オプション) OSPF 集約 LSA 生成のデバッグをイネーブルにします。
<i>packet</i>	(オプション) 受信した OSPF パケットのデバッグをイネーブルにします。
<i>retransmission</i>	(オプション) OSPF 再送信イベントのデバッグをイネーブルにします。
<i>spf</i>	(オプション) OSPF 最短パス優先計算のデバッグをイネーブルにします。SPF デバッグ情報は、 external 、 inter 、および intra のキーワードを使用することで制限できます。
<i>tree</i>	(オプション) OSPF データベース イベントのデバッグをイネーブルにします。

デフォルト

キーワードが提供されないときに、すべての OSPF デバッグ情報が表示されます。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

例

次に、**debug ospf events** コマンドの出力例を示します。

```
hostname# debug ospf events
ospf event debugging is on

OSPF:hello with invalid timers on interface Ethernet0
hello interval received 10 configured 10
net mask received 255.255.255.0 configured 255.255.255.0
dead interval received 40 configured 30
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ospf	OSPF ルーティング プロセスに関する一般情報を表示します。

debug parser cache

CLI パーサーのデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug parser cache** コマンドを使用します。CLI パーサーのデバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug parser cache [*level*]

no debug parser cache

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	--

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカルサポート スタッフとのトラブルシューティングセッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例 次の例では、CLI パーサーのデバッグメッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。CLI パーサーのデバッグメッセージは、**show debug** コマンドの出力の前後に表示されます。

```
hostname# debug parser cache
debug parser cache enabled at level 1
hostname# show debug
parser cache: try to match 'show debug' in exec mode
debug parser cache enabled at level 1
parser cache: hit at index 8
hostname#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。


debug pim

PIM のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug pim** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug pim [df-election [interface if_name | rp rp] | group group | interface if_name | neighbor]
```

```
no debug pim [df-election [interface if_name | rp rp] | group group | interface if_name | neighbor]
```

シンタックスの説明

df-election	(オプション) PIM の双方向 DF 選定メッセージプロセスに関するデバッグメッセージを表示します。
group group	(オプション) 指定されたグループのデバッグ情報を表示します。group の値は、次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> マルチキャストグループの名前。DNS の hosts テーブルに定義されているものか、ドメインの ipv4 host コマンドで定義したものです。 マルチキャストグループの IP アドレス。これは、4 分割ドット 10 進表記のマルチキャスト IP アドレスです。
interface if_name	(オプション) df-election キーワードと共に使用する場合は、DF 選定のデバッグ表示を、指定したインターフェイスに関する情報に制限します。 df-election キーワードと共に使用しない場合は、指定されたインターフェイスの PIM エラーメッセージを表示します。
	 (注) debug pim interface コマンドは、PIM プロトコル アクティビティメッセージを表示せず、エラーメッセージだけを表示します。PIM プロトコル アクティビティのデバッグ情報を表示するには、 interface キーワードを使用せずに debug pim コマンドを使用します。 group キーワードを使用して、指定されたマルチキャストグループに表示を制限することができます。
neighbor	(オプション) 送信、または受信された PIM の HELLO メッセージだけを表示します。
rp rp	(オプション) 次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> RP の名前。ドメイン ネーム システム (DNS) の hosts テーブルに定義されているものか、ドメインの ipv4 host コマンドで定義したものです。 RP の IP アドレス。これは、4 分割ドット 10 進表記のマルチキャスト IP アドレスです。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	—	—

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 受信および送信された PIM パケットおよび PIM 関連のイベントを記録します。

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例 次に、**debug pim** コマンドの出力例を示します。

```
hostname# debug pim
PIM: Received Join/Prune on Ethernet1 from 172.24.37.33
PIM: Received Join/Prune on Ethernet1 from 172.24.37.33
PIM: Received Join/Prune on Tunnel0 from 10.3.84.1
PIM: Received Join/Prune on Ethernet1 from 172.24.37.33
PIM: Received Join/Prune on Ethernet1 from 172.24.37.33
PIM: Received RP-Reachable on Ethernet1 from 172.16.20.31
PIM: Update RP expiration timer for 224.2.0.1
PIM: Forward RP-reachability packet for 224.2.0.1 on Tunnel0
PIM: Received Join/Prune on Ethernet1 from 172.24.37.33
PIM: Prune-list (10.221.196.51/32, 224.2.0.1)
PIM: Set join delay timer to 2 seconds for (10.221.0.0/16, 224.2.0.1) on Ethernet1
PIM: Received Join/Prune on Ethernet1 from 172.24.37.6
PIM: Received Join/Prune on Ethernet1 from 172.24.37.33
PIM: Received Join/Prune on Tunnel0 from 10.3.84.1
PIM: Join-list: (*, 224.2.0.1) RP 172.16.20.31
PIM: Add Tunnel0 to (*, 224.2.0.1), Forward state
PIM: Join-list: (10.0.0.0/8, 224.2.0.1)
PIM: Add Tunnel0 to (10.0.0.0/8, 224.2.0.1), Forward state
PIM: Join-list: (10.4.0.0/16, 224.2.0.1)
PIM: Prune-list (172.24.84.16/28, 224.2.0.1) RP-bit set RP 172.24.84.16
PIM: Send Prune on Ethernet1 to 172.24.37.6 for (172.24.84.16/28, 224.2.0.1), RP
PIM: For RP, Prune-list: 10.9.0.0/16
PIM: For RP, Prune-list: 10.16.0.0/16
PIM: For RP, Prune-list: 10.49.0.0/16
PIM: For RP, Prune-list: 10.84.0.0/16
PIM: For RP, Prune-list: 10.146.0.0/16
PIM: For 10.3.84.1, Join-list: 172.24.84.16/28
PIM: Send periodic Join/Prune to RP via 172.24.37.6 (Ethernet1)
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show pim group-map	グループからプロトコルへのマッピング テーブルを表示します。
	show pim interface	PIM インターフェイス固有の情報を表示します。
	show pim neighbor	PIM ネイバーテーブルのエントリを表示します。

debug pix pkt2pc

uauth コードに送信されたパケットをトレースし、uauth プロキシセッションがデータパスにカットスルーしたイベントをトレースするデバッグメッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug pix pkt2pc** コマンドを使用します。デバッグメッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug pix pkt2pc

no debug pix pkt2pc

シンタックスの説明

このコマンドには、引数もキーワードもありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例

次の例では、uauth コードに送信されたパケットをトレースし、uauth プロキシセッションがデータパスにカットスルーしたイベントをトレースするデバッグメッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug pix pkt2pc
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug pix process	xlate およびセカンダリ接続プロセスに関するデバッグメッセージを表示します。
show debug	イネーブルなデバッグをすべて表示します。

debug pix process

xlate およびセカンダリ接続プロセスに関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug pix process** コマンドを使用します。デバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug pix process

no debug pix process

シンタックスの説明 このコマンドには、引数もキーワードもありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン **debug** コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例 次の例では、xlate およびセカンダリ接続プロセスのデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug pix process
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug pix pkt2pc	uauth コードに送信されたパケットをトレースし、uauth プロキシセッションがデータパスにカットスルーしたイベントをトレースするデバッグ メッセージを表示します。
show debug	イネーブルなデバッグをすべて表示します。

debug pptp

PPTP に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug pptp** コマンドを使用します。PPTP に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug pptp [*level*]

no debug pptp [*level*]

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	---

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンド モード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴	リリース	変更内容
	既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注)

debug pptp コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

例 次の例では、PPTP アプリケーション検査に対するデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug pptp
```

関連コマンド	コマンド	説明
	class-map	セキュリティ アクションを適用する先のトラフィック クラスを定義します。
	inspect pptp	PPTP アプリケーション検査をイネーブルにします。
	policy-map	クラス マップを特定のセキュリティ アクションに関連付けます。
	service-policy	1 つまたは複数のインターフェイスにポリシー マップを適用します。

debug radius

AAA に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug radius** コマンドを使用します。RADIUS メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug radius [*all* | *decode* | *session* | *user username*]

no debug radius

シンタックスの説明	
<i>all</i>	(オプション) デコードされた RADIUS メッセージを含む、すべてのユーザおよびセッションに関する RADIUS デバッグ メッセージを表示します。
<i>decode</i>	(オプション) RADIUS メッセージのデコードされたコンテンツを表示します。16 進値と、それらの値をデコードした読み取り可能なバージョンを含む、すべての RADIUS パケットのコンテンツが表示されます。
<i>session</i>	(オプション) セッション関連の RADIUS メッセージを表示します。送信および受信された RADIUS メッセージのパケット タイプは表示されますが、パケット コンテンツは表示されません。
<i>user</i>	(オプション) 特定のユーザに関する RADIUS デバッグ メッセージを表示します。
<i>username</i>	メッセージを表示する対象のユーザを指定します。 user キーワードと共に使用する場合だけ有効です。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン **debug radius** コマンドは、セキュリティ アプライアンスと RADIUS AAA サーバの間の RADIUS メッセージに関する詳細情報を表示します。**no debug all** コマンドまたは **undebug all** コマンドは、イネーブルなデバッグをすべてオフにします。

例 次の例は、デコードされた RADIUS メッセージを示しています。これはアカウントリング パケットです。

```

hostname(config)# debug radius decode
hostname(config)# RADIUS packet decode (accounting request)

-----
Raw packet data (length = 216).....
i
Parsed packet data.....
Radius: Code = 4 (0x04)
Radius: Identifier = 105 (0x69)
Radius: Length = 216 (0x00D8)
Radius: Vector: 842E0E99F44C00C05A0A19AB88A81312
Radius: Type = 40 (0x28) Acct-Status-Type
Radius: Length = 6 (0x06)
Radius: Value (Hex) = 0x2
Radius: Type = 5 (0x05) NAS-Port
Radius: Length = 6 (0x06)
Radius: Value (Hex) = 0x1
Radius: Type = 4 (0x04) NAS-IP-Address
Radius: Length = 6 (0x06)
Radius: Value (IP Address) = 10.1.1.1 (0x0A010101)
Radius: Type = 14 (0x0E) Login-IP-Host
Radius: Length = 6 (0x06)
Radius: Value (IP Address) = 10.2.0.50 (0xD0FE1291)
Radius: Type = 16 (0x10) Login-TCP-Port
Radius: Length = 6 (0x06)
Radius: Value (Hex) = 0x50
Radius: Type = 44 (0x2C) Acct-Session-Id
Radius: Length = 12 (0x0C)
Radius: Value (String) =
30 78 31 33 30 31 32 39 66 65 | 0x130129fe
Radius: Type = 1 (0x01) User-Name
Radius: Length = 9 (0x09)
Radius: Value (String) =
62 72 6f 77 73 65 72 | browser
Radius: Type = 46 (0x2E) Acct-Session-Time
Radius: Length = 6 (0x06)
Radius: Value (Hex) = 0x0
Radius: Type = 42 (0x2A) Acct-Input-Octets
Radius: Length = 6 (0x06)
Radius: Value (Hex) = 0x256D
Radius: Type = 43 (0x2B) Acct-Output-Octets
Radius: Length = 6 (0x06)
Radius: Value (Hex) = 0x3E1
Radius: Type = 26 (0x1A) Vendor-Specific
Radius: Length = 30 (0x1E)
Radius: Vendor ID = 9 (0x00000009)
Radius: Type = 1 (0x01) Cisco-AV-pair
Radius: Length = 24 (0x18)
Radius: Value (String) =
69 70 3a 73 6f 75 72 63 65 2d 69 70 3d 31 30 2e | ip:source-ip=10.
31 2e 31 2e 31 30 | 1.1.10
Radius: Type = 26 (0x1A) Vendor-Specific
Radius: Length = 27 (0x1B)
Radius: Vendor ID = 9 (0x00000009)
Radius: Type = 1 (0x01) Cisco-AV-pair
Radius: Length = 21 (0x15)
Radius: Value (String) =
69 70 3a 73 6f 75 72 63 65 2d 70 6f 72 74 3d 33 | ip:source-port=3
34 31 33 | 413
Radius: Type = 26 (0x1A) Vendor-Specific
Radius: Length = 40 (0x28)
Radius: Vendor ID = 9 (0x00000009)
Radius: Type = 1 (0x01) Cisco-AV-pair
Radius: Length = 34 (0x22)
Radius: Value (String) =
69 70 3a 64 65 73 74 69 6e 61 74 69 6f 6e 2d 69 | ip:destination-i

```

```
70 3d 32 30 38 2e 32 35 34 2e 31 38 2e 31 34 35 | p=10.2.0.50
Radius: Type = 26 (0x1A) Vendor-Specific
Radius: Length = 30 (0x1E)
Radius: Vendor ID = 9 (0x00000009)
Radius: Type = 1 (0x01) Cisco-AV-pair
Radius: Length = 24 (0x18)
Radius: Value (String) =
69 70 3a 64 65 73 74 69 6e 61 74 69 6f 6e 2d 70 | ip:destination-p
6f 72 74 3d 38 30 | ort=80
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show running-config</code>	セキュリティ アプライアンス上で実行されている設定を表示します。

debug rip

RIP のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug rip** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug rip [*database* | *events*]

no debug rip [*database* | *events*]

シンタックスの説明

database	RIP データベース イベントを表示します。
events	RIP 処理イベントを表示します。

デフォルト

すべての RIP イベントがデバッグ出力に表示されます。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。
7.2(1)	database キーワードと events キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、Cisco TAC とのトラブルシューティングセッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワークトラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例 次に、**debug rip** コマンドの出力例を示します。

```
hostname# debug rip

RIP: broadcasting general request on GigabitEthernet0/1
RIP: broadcasting general request on GigabitEthernet0/2
RIP: Received update from 10.89.80.28 on GigabitEthernet0/1
    10.89.95.0 in 1 hops
    10.89.81.0 in 1 hops
    10.89.66.0 in 2 hops
    172.31.0.0 in 16 hops (inaccessible)
    0.0.0.0 in 7 hops
RIP: Sending update to 255.255.255.255 via GigabitEthernet0/1 (10.89.64.31)
    subnet 10.89.94.0, metric 1
    172.31.0.0 in 16 hops (inaccessible)
RIP: Sending update to 255.255.255.255 via GigabitEthernet0/2 (10.89.94.31)
    subnet 10.89.64.0, metric 1
    subnet 10.89.66.0, metric 3
    172.31.0.0 in 16 hops (inaccessible)
    default 0.0.0.0, metric 8
RIP: bad version 128 from 192.168.80.43
```

関連コマンド

コマンド	説明
router rip	RIP プロセスを設定します。
show running-config rip	実行コンフィギュレーション内の RIP コマンドを表示します。

debug rtp

H.323 検査および SIP 検査に関連する RTP パケットのデバッグ情報およびエラー メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug rtp** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug rtp [level]
```

```
no debug rtp [level]
```

シンタックスの説明

level (オプション) デバッグのオプション レベルを指定します。

デフォルト

デフォルトのレベルは 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

例

次の例では、**debug rtp** コマンドを使用して RTP パケットのデバッグをイネーブルにする方法を示しています。

```
hostname# debug rtp 255
debug rtp enabled at level 255
```

関連コマンド

コマンド	説明
policy-map	レイヤ 3/4 のポリシー マップを作成します。
rtp-conformance	ピンホールを流れる RTP パケットの H.323 および SIP におけるプロトコル適合性を確認します。
show running-config policy-map	現在のすべてのポリシー マップ コンフィギュレーションを表示します。

debug rtsp

RTSP アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug rtsp** コマンドを使用します。RTSP アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug rtsp [*level*]

no debug rtsp [*level*]

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注)

debug rtsp コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

例

次の例では、RTSP アプリケーション検査のデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug rtsp
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	セキュリティ アクションを適用する先のトラフィック クラスを定義します。
inspect rtsp	RTSP アプリケーション検査をイネーブルにします。
policy-map	クラス マップを特定のセキュリティ アクションに関連付けます。
service-policy	1 つまたは複数のインターフェイスにポリシー マップを適用します。

debug sdi

SDI 認証のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug sdi** コマンドを使用します。SDI デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug sdi [*level*]

no debug sdi

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ～ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、SDI デバッグメッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、SDI デバッグメッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug sdi
debug sdi enabled at level 1
hostname# show debug
debug sdi enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug sequence

すべてのデバッグ メッセージの最初にシーケンス番号を追加するには、特権 EXEC モードで **debug sequence** コマンドを使用します。デバッグ シーケンス番号の使用をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug sequence [*level*]

no debug sequence

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ～ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

デフォルトは次のとおりです。

- デバッグ メッセージのシーケンス番号はディセーブルになっています。
- *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

例 次の例では、デバッグメッセージのシーケンス番号をイネーブルにします。**debug parser cache** コマンドは、CLI パーサー デバッグ メッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。表示されている CLI パーサー デバッグ メッセージには、各メッセージの前にシーケンス番号が含まれます。

```
hostname# debug sequence
debug sequence enabled at level 1
hostname# debug parser cache
debug parser cache enabled at level 1
hostname# show debug
0: parser cache: try to match 'show debug' in exec mode
debug parser cache enabled at level 1
debug sequence enabled at level 1
1: parser cache: hit at index 8
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug session-command

SSM へのセッションに対するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug session-command** コマンドを使用します。セッションに関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug session-command [*level*]

no debug session-command [*level*]

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	---

デフォルト デフォルトのレベルは 1 です。

コマンド モード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **debug** コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例 次の例では、セッションのデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug session-command
```

関連コマンド	コマンド	説明
	session	SSM へのセッションです。

debug sip

SIP アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug sip** コマンドを使用します。SIP アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug sip [*level*]

no debug sip [*level*]

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	---

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンド モード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴	リリース	変更内容
	既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注) **debug sip** コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

例 次の例では、SIP アプリケーション検査に対するデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug sip
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	セキュリティ アクションを適用する先のトラフィック クラスを定義します。
inspect sip	SIP アプリケーション検査をイネーブルにします。
show conn	さまざまな接続タイプの接続状態を表示します。
show sip	セキュリティ アプライアンスを介して確立された SIP セッションに関する情報を表示します。
timeout	さまざまなプロトコルおよびセッション タイプのアイドル状態の最大継続時間を設定します。

debug skinny

SCCP (Skinny) アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug skinny** コマンドを使用します。SCCP アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug skinny [*level*]

no debug skinny [*level*]

シンタックスの説明

<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
--------------	---

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注)

debug skinny コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

■ debug skinny

例 次の例では、SCCP アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug skinny
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	セキュリティ アクションを適用する先のトラフィック クラスを定義します。
inspect skinny	SCCP アプリケーション検査をイネーブルにします。
show skinny	セキュリティ アプライアンスを介して確立された SCCP セッションに関する情報を表示します。
show conn	さまざまな接続タイプの接続状態を表示します。
timeout	さまざまなプロトコルおよびセッション タイプのアイドル状態の最大継続時間を設定します。

debug sla monitor

SLA モニタ オペレーションのデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug sla monitor** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sla monitor [error | trace] [sla-id]
```

```
no debug sla monitor [sla-id]
```

シンタックスの説明

error	(オプション) IP SLA モニタ エラー メッセージを出力します。
sla-id	(オプション) デバッグする SLA の ID を指定します。
trace	(オプション) IP SLA モニタ トレース メッセージを出力します。

デフォルト

エラー メッセージとトレース メッセージはデフォルトで表示されます。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

一度にデバッグできるのは 32 の SLA オペレーションのみです。

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、Cisco TAC とのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、SLA オペレーション エラーのデバッグをイネーブルにします。

```
hostname(config)# debug sla monitor error
```

次の例では、指定された SLA オペレーションの SLA オペレーション トレース メッセージの表示方法を示します。

```
hostname(config)# debug sla monitor trace 123
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>clear configure route</code>	スタティックに設定された route コマンドを削除します。
	<code>clear route</code>	RIP などのダイナミック ルーティング プロトコルを通じてラーニングされたルート削除します。
	<code>show route</code>	ルート情報を表示します。
	<code>show running-config route</code>	設定されているルートを表示します。

debug sqlnet

SQL*Net アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug sqlnet** コマンドを使用します。SQL*Net アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug sqlnet [*level*]

no debug sqlnet [*level*]

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンド モード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴	リリース	変更内容
	既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注) **debug sqlnet** コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

例 次の例では、SQL*Net アプリケーション検査に対するデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug sqlnet
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	セキュリティ アクションを適用する先のトラフィック クラスを定義します。
inspect sqlnet	SQL*Net アプリケーション検査をイネーブルにします。
policy-map	クラス マップを特定のセキュリティ アクションに関連付けます。
service-policy	1 つまたは複数のインターフェイスにポリシー マップを適用します。
show conn	SQL*Net など、さまざまな接続タイプの接続状態を表示します。

debug ssh

SSH に関連するデバッグ情報およびエラー メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug ssh** コマンドを使用します。デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ssh [level]
```

```
no debug ssh [level]
```

シンタックスの説明

level (オプション) デバッグのオプション レベルを指定します。

デフォルト

デフォルトのレベルは 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

例

次に、**debug ssh 255** コマンドの出力例を示します。

```
hostname# debug ssh 255
debug ssh enabled at level 255
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 17)
SSH2 0: done calc MAC out #239
SSH2 0: send: len 32 (includes padlen 7)
SSH2 0: done calc MAC out #240
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 15)
SSH2 0: done calc MAC out #241
SSH2 0: send: len 32 (includes padlen 16)
SSH2 0: done calc MAC out #242
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 7)
SSH2 0: done calc MAC out #243
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 18)
SSH2 0: done calc MAC out #244
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 8)
SSH2 0: done calc MAC out #245
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 18)
SSH2 0: done calc MAC out #246
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 7)
SSH2 0: done calc MAC out #247
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 18)
SSH2 0: done calc MAC out #248
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 7)
SSH2 0: done calc MAC out #249
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 18)
SSH2 0: done calc MAC out #250
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 8)
SSH2 0: done calc MAC out #251
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 18)
SSH2 0: done calc MAC out #252
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 7)
SSH2 0: done calc MAC out #253
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 18)
SSH2 0: done calc MAC out #254
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 8)
SSH2 0: done calc MAC out #255
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 18)
SSH2 0: done calc MAC out #256
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 7)
SSH2 0: done calc MAC out #257
SSH2 0: send: len 64 (includes padlen 18)
SSH2 0: done calc MAC out #258
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear configure ssh	実行コンフィギュレーションからすべての SSH コマンドを消去します。
show running-config ssh	実行コンフィギュレーション内の現在の SSH コマンドを表示します。
show ssh sessions	セキュリティ アプライアンス上のアクティブな SSH セッションに関する情報を表示します。
ssh	指定したクライアントまたはネットワークからセキュリティ アプライアンスへの SSH 接続を許可します。

debug ssl

SSL のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug ssl** コマンドを使用します。SSL デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ssl {cipher | device} [level]
```

```
no debug ssl {cipher | device}
```

シンタックスの説明

<i>cipher</i>	HTTP サーバとクライアント間の暗号ネゴシエーションに関する情報を表示します。
<i>device</i>	セッションの開始と進行中のステータスを含む SSL デバイスに関する情報を表示します。
<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグメッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	—	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティングセッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、特に暗号ネゴシエーションに対する SSL デバッグメッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、SSL デバッグメッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug ssl cipher
debug ssl cipher enabled at level 1
hostname# show debug
debug ssl cipher enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug sunrpc

RPC アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug sunrpc** コマンドを使用します。RPC アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug sunrpc [*level*]

no debug sunrpc [*level*]

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注)

debug sunrpc コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

例

次の例では、RPC アプリケーション検査に対するデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug sunrpc
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	セキュリティ アクションを適用する先のトラフィック クラスを定義します。
inspect sunrpc	Sun RPC アプリケーション検査をイネーブルにします。
policy-map	クラス マップを特定のセキュリティ アクションに関連付けます。
show conn	RPC など、さまざまな接続タイプの接続状態を表示します。
timeout	さまざまなプロトコルおよびセッション タイプのアイドル状態の最大継続時間を設定します。

debug switch ilpm

ASA 5505 適応型セキュリティ アプライアンスなどの内蔵スイッチが搭載されたモデルの場合、特権 EXEC モードで **debug switch ilpm** コマンドを使用して PoE のデバッグ メッセージを表示します。PoE に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug switch ilpm [events | errors] [level]
```

```
no debug switch ilpm [events | errors] [level]
```

シンタックスの説明

errors	(オプション) エラーがある場合に、トラブルシューティング情報を表示します。
events	(オプション) PoE イベントを表示します。
level	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

キーワードを指定しない場合、デフォルトではイベントとエラーの両方が表示されます。デフォルトのレベルは 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

debug コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例

次の例では、PoE ポートのデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug switch ilpm
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface vlan	VLAN インターフェイスを追加します。
debug switch manager	VLAN 割り当てのデバッグ メッセージと switchport コマンドにより発生したイベントとエラーを表示します。
show debug	イネーブルなデバッガをすべて表示します。

debug switch manager

ASA 5505 適応型セキュリティ アプライアンスなどの内蔵スイッチが搭載されたモデルの場合、特権 EXEC モードで **debug switch manager** コマンドを使用して、VLAN 割り当てのデバッグメッセージと **switchport** コマンドにより発生したイベントとエラーを表示します。スイッチ ポートに関するデバッグメッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug switch manager [events | errors] [level]
```

```
no debug switch manager [events | errors] [level]
```

シンタックスの説明

errors	(オプション) エラーがある場合に、トラブルシューティング情報を表示します。
events	(オプション) スイッチ マネージャ イベントを表示します。
level	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

キーワードを指定しない場合、デフォルトではイベントとエラーの両方が表示されます。デフォルトのレベルは 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

debug コマンドを使用すると、通信量の多いネットワークのトラフィックが遅くなる可能性があります。

例

次の例では、スイッチ ポートのデバッグ メッセージをイネーブルにします。

```
hostname# debug switch manager
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface vlan	VLAN インターフェイスを追加します。
debug switch ilpm	PoE に関するデバッグ メッセージを表示します。
show debug	イネーブルなデバッグをすべて表示します。

debug tacacs

TACACS+ のデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug tacacs** コマンドを使用します。TACACS+ デバッグ情報の表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug tacacs [session | user username]
```

```
no debug tacacs [session | user username]
```

シンタックスの説明

session	セッション関連の TACACS+ デバッグ メッセージを表示します。
user	ユーザ固有の TACACS+ デバッグ メッセージを表示します。一度に 1 人のユーザの TACACS+ デバッグ メッセージだけ表示できます。
username	TACACS+ デバッグ メッセージを表示するユーザを指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、TACACS+ デバッグ メッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、TACACS+ デバッグ メッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug tacacs user admin342
hostname# show debug
debug tacacs user admin342
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug tcp-map

TCP アプリケーション検査マップに関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug tcp-map** コマンドを使用します。TCP アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug tcp-map

no debug tcp-map

シンタックスの説明 このコマンドには、引数もキーワードもありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

例 次の例では、TCP アプリケーション検査マップに対するデバッグ メッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、TCP アプリケーション検査マップのデバッグ メッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug tcp-map
debug tcp-map enabled at level 1.
hostname# show debug
debug tcp-map enabled at level 1.
hostname#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug timestamps

すべてのデバッグ メッセージの最初にタイムスタンプ情報を追加するには、特権 EXEC モードで **debug timestamps** コマンドを使用します。デバッグ タイムスタンプの使用をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug timestamps [*level*]

no debug timestamps

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

デフォルトは次のとおりです。

- デバッグ タイムスタンプ情報はディセーブルです。
- *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンドモード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性があります。

例 次の例では、デバッグメッセージのタイムスタンプをイネーブルにします。**debug parser cache** コマンドは、CLI パーサー デバッグメッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。表示されている CLI パーサー デバッグメッセージには、各メッセージの前にタイムスタンプが含まれています。

```
hostname# debug timestamps
debug timestamps enabled at level 1
hostname# debug parser cache
debug parser cache enabled at level 1
hostname# show debug
1982769.770000000: parser cache: try to match 'show debug' in exec mode
1982769.770000000: parser cache: hit at index 8
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug vpn-sessiondb

VPN セッション データベースのデバッグ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **debug vpn-sessiondb** コマンドを使用します。VPN セッション データベースに関するデバッグ情報の表示をディisableにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug vpn-sessiondb [*level*]

no debug vpn-sessiondb

シンタックスの説明	<i>level</i>	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。
------------------	--------------	---

デフォルト *level* のデフォルト値は 1 です。

コマンド モード 次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	•

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.0(1)(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デバッグ出力は CPU プロセスで高優先順位が割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例 次の例では、VPN セッション データベースのデバッグ メッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、VPN セッション データベースのデバッグ メッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug vpn-sessiondb
debug vpn-sessiondb  enabled at level 1
hostname# show debug
debug vpn-sessiondb  enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug wccp

WCCP イベントのロギングをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug wccp** コマンドを使用します。WCCP デバッグ メッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug wccp {events | packets | subblocks}
```

```
no debug wccp {events | packets | subblocks}
```

シンタックスの説明

events	WCCP セッション イベントのロギングをイネーブルにします。
packets	WCCP パケット情報に関するデバッグ メッセージのロギングをイネーブルにします。
subblocks	WCCP サブブロックに関するデバッグ メッセージのロギングをイネーブルにします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力に高優先順位を割り当てることで、システムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカルサポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、すべての WCCP セッション イベントのロギングをイネーブルにします。

```
hostname# debug wccp events
hostname#
```

次の例では、WCCP パケット デバッグ メッセージのロギングをイネーブルにします。

```
hostname# debug wccp packets
hostname#
```

次の例では、WCCP デバッグ メッセージのロギングをディセーブルにします。

```
hostname# no debug wccp
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
wccp	WCCP のサポートをイネーブルにします。
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug webvpn

WebVPN デバッグ メッセージをログに記録するには、特権 EXEC モードで **debug webvpn** コマンドを使用します。WebVPN デバッグ メッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug webvpn [chunk | cifs | citrix | failover | html | javascript | request | response | svc | transformation
| url | util | xml] [level]
```

```
no debug webvpn [chunk | cifs | citrix | failover | html | javascript | request | response | svc |
transformation | url | util | xml] [level]
```

シンタックスの説明

chunk	WebVPN 接続のサポートに使用されるメモリ ブロックのデバッグ メッセージを表示します。
cifs	Common Internet File System (CIFS) サーバと WebVPN ユーザの間の接続のデバッグ メッセージを表示します。
citrix	Citrix Metaframe サーバと Citrix ICA クライアントの間の、WebVPN を通した接続のデバッグ メッセージを表示します。
failover	WebVPN 接続に影響を与える機器のフェールオーバーのデバッグ メッセージを表示します。
html	WebVPN 接続を通して送信される HTML ページのデバッグ メッセージを表示します。
javascript	WebVPN 接続を通して送信される JavaScript のデバッグ メッセージを表示します。
request	WebVPN 接続を通して送信される要求のデバッグ メッセージを表示します。
response	WebVPN 接続を通して送信される応答のデバッグ メッセージを表示します。
svc	WebVPN を通した SSL VPN クライアントへの接続に関するデバッグ メッセージを表示します。
transformation	WebVPN の内容の変換に関するデバッグ メッセージを表示します。
url	WebVPN 接続を通して送信される Web サイト要求に関するデバッグ メッセージを表示します。
util	WebVPN リモート ユーザへの接続のサポートだけに使用される CPU の利用率に関するデバッグ メッセージを表示します。
xml	WebVPN 接続を通して送信される JavaScript のデバッグ メッセージを表示します。
level	(オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ～ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

`level` のデフォルト値は 1 です。

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	—	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力に高優先順位を割り当てることで、システムが使用できなくなることがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、シスコのテクニカル サポート スタッフとのトラブルシューティング セッションの間に限り **debug** コマンドを使用してください。さらに、ネットワーク トラフィック量やユーザ数が少ない期間に **debug** コマンドを使用することをお勧めします。このような期間にデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理オーバーヘッドの増加によってシステムの使用に影響が生じる可能性が低くなります。

例

次の例では、特に CIFS に対する WebVPN デバッグ メッセージをイネーブルにします。**show debug** コマンドは、CIFS のデバッグ メッセージがイネーブルになっていることを示します。

```
hostname# debug webvpn cifs
INFO: debug webvpn cifs enabled at level 1.
hostname# show debug
debug webvpn cifs enabled at level 1
hostname#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show debug	現在のデバッグ コンフィギュレーションを表示します。

debug xdmcp

XDMCP アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug xdmcp** コマンドを使用します。XDMCP アプリケーション検査に関するデバッグ メッセージの表示を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug xdmcp [*level*]

no debug xdmcp [*level*]

シンタックスの説明

level (オプション) 表示するデバッグ メッセージのレベル (1 ~ 255) を設定します。デフォルトは 1 です。高レベルの追加メッセージを表示するには、レベルを高い数値に設定します。

デフォルト

level のデフォルト値は 1 です。

コマンド モード

次の表は、このコマンドを入力できるモードを示しています。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	透過	シングル	マルチ コンテキスト	システム
特権 EXEC	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
既存	このコマンドは既存のものです。

使用上のガイドライン

debug コマンドの現在の設定を表示するには、**show debug** コマンドを入力します。デバッグ出力を停止するには、**no debug** コマンドを入力します。デバッグ メッセージがすべて表示されないようにするには、**no debug all** コマンドを入力します。



(注)

debug xdmcp コマンドをイネーブルにすると、通信量の多いネットワークでは、トラフィックの速度が遅くなります。

例

次の例では、XDMCP アプリケーション検査に対するデバッグ メッセージをデフォルトのレベル (1) でイネーブルにします。

```
hostname# debug xdmcp
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	セキュリティ アクションを適用する先のトラフィック クラスを定義します。
inspect xdmcp	XDMCP アプリケーション検査をイネーブルにします。
policy-map	クラス マップを特定のセキュリティ アクションに関連付けます。
service-policy	1 つまたは複数のインターフェイスにポリシー マップを適用します。